

前泊地区の沈砂池に関して、復旧の進行状況を伺う ／ 津田隆

■ 2 番 津田隆議員 前泊地区の沈砂池について聞きたいと思います。聞く前に、いろいろ話を聞いたり、打ち合わせもあったんで、また議会の中でも説明聞いたり、計画も聞いたんで、深いことは追求しませんけど、でも相当考えてくれて、これから先、明るいのかなと。またこれから、先に足りないところは、議会も一緒になって検討しながら進めていくことをお願いします。

■議長（金城信光） 農林水産課長。

■伊礼直樹農林水産課長 津田議員の質疑にお答えします。前泊地区ですね、前泊地区の沈砂池の現状としては1程度、赤土流出防止が図られてはいるものの、大雨が短時間に集中した場合において、村単費で実施している海岸の砂の堤防及びポンプアップでは限界となっているのが実状です。これまで、沖縄県窓口にも現状を把握していただき、何度も早期対策事業へ向け要請をしまいいりました。今年度において、次年度の新規対策へ向けたヒアリングを行っている状況で、次年度採択への交渉を行っている状況です。事業内容としては、環太平洋水質保全対策事業を活用した赤土対策となっています。

今、皆さんのお手元に配られた図面がありますが、この赤色に塗っている3号沈砂池と海岸側の1号沈砂池、これが今現状の沈砂池となっています。この新しい事業では、こちらの沈砂池を浸透池っていう、浸透する能力が高いタイプのものに変える、改修する予定です。さらにその右上に、黄色っぽい、ちょっと字が小さくて申し訳ないです。この3号沈砂池の右隣に黄色のラインが、色があるところ、こちらの用地を購入して、オーバーフロー等するための、調整するための調整池をこちらに、3号のための調整池を設けて、こちらをオーバーすると3号浸透池に落ちるかたちになります。1号沈砂池にも同じく右側に調整池っていうのが、新設っていうのがありますが、こちらに新しい調整池っていうのを設けまして、ここがオーバーフローすると1号浸透池に落ちるというかたちの事業内容と、あと、左側の前泊って書かれている文字の上のほうですね、この流域、山の流域の水が県道を越えて合流しているので、それを分けると、圃場の水と山水を分けて、圃場の水は3号、今、沈砂池の前をって、1号沈砂池の流末に来るので、そのまま栄養価の高い山水はそのまま流すということで、分散することで、今までの赤土のものに対してはクリアできるのかなと考えています。以上です。

■議長（金城信光） 津田議員。

■ 2 番 津田隆議員 はい、よく理解できました。二度と失敗しないように一緒に検討しながらよろしくお願いします。以上で終わります。